

平成28年 鳥取市政10大ニュース

順位	項目	説明
1	新しい鳥取市の応援団、シティセールス スペシャルサポーター任命へ	情報発信力のある著名人と協力関係を結び、本市のシティセールスを共に企画・推進していく、「鳥取市シティセールススペシャルサポーター」制度を創設。 元バレーボール日本代表の山本隆弘氏（平成28年4月8日）と、鳥取市出身力士の石浦関（平成28年9月27日）を任命し、11月27日には山本氏が誘致・プロデュースした、自転車ロングライドイベント「鳥取すごい！ライド」を開催。県外者が8割となる約500名の参加者があり、好評を博した。また、新入幕ながら10連勝と大活躍し、敢闘賞を受賞した石浦関による移住定住キャンペーン「SUMO！鳥取市キャンペーン」をスタートした。
2	第10次鳥取市総合計画がスタート！	平成28年度を初年度とする、深澤市政初の総合計画（平成28年3月31日策定）がスタート。「鳥取市創生総合戦略」を重点施策に位置付け、「いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市」の実現に向けて具体的な方策を示した。
3	鳥取県中部地震発生への速やかな対応	平成28年10月21日、午後2時7分、鳥取県中部を震源とするマグニチュード6.6、震度6弱の地震が発生し、鳥取市では、青谷・鹿野地域で震度5強を記録した。西部地域を中心に、住家や公共施設などに多くの被害が発生したことから、市内での住家被害への支援を実施するとともに、被害が大きかった県中部へ、物資の支援や職員派遣などを速やかに実施した。 また、11月臨時市議会では、被害のあった住家に対する支援金・見舞金等、施設の修繕、観光への風評被害の払拭に係る補正予算が議決された。今後、速やかに執行を進め、震災に係る支援を引き続き行っていく。
4	「定住促進・Uターン支援相談窓口」の開設から2,000人が移住定住！	平成18年9月から、「鳥取市定住促進・Uターン相談支援窓口」を設置し、移住定住の取組を進めてきた結果、本年7月に移住者総数が2,000人に到達した。 現在、移住希望者にきめ細やかな相談対応として、東京・大阪の各1名相談員を含めて9名の専任相談員を配置。Uターン支援登録制度を新設するなど、若者へのUターンの呼びかけを強化している。 また、本年1月10日（移住の日（「1（い）10（じゅう）の語呂あわせ」）に、鳥取市移住・交流情報ガーデンを鳥取駅北口近くにオープンし、移住に関する情報発信や相談対応、移住された方の鳥取暮らしを支援している。 今後も、「住みたい田舎」、「地域の暮らしやすさ」など魅力を最大限に生かした施策に取り組んでいく。
5	新可燃物処理施設整備に向け大きく前進	鳥取県東部広域行政管理組合は、河原町国英地区に建設を予定している新可燃物処理施設整備事業について、東部広域と地元14集落及び構成市町と、平成28年8月1日に「基本協定書」を、11月27日に運転管理や公害防止に関する「細目協定」を締結した。 また、来年3月31日をもって稼働を停止することになっていた神谷清掃工場について、東郷地区の皆様へ稼働延長の要請をさせていただき、11月30日には覚書を締結した。今後も、東部広域行政管理組合及び東部4町と連携し、可燃物処理施設整備の取り組みを着実に進めていく。
6	工業団地への立地企業が相次ぎ操業を開始、鳥取県東部の雇用情勢が大幅に改善	河原インター山手工業団地に立地した㈱イナテック鳥取、新津ノ井工業団地に立地した今井航空機器工業㈱の新工場が6月に稼働、南吉方工業団地に進出した㈱源吉兆庵が8月に稼働、さらには鳥取南インター布袋工業団地に立地した㈱ササヤマの新工場が9月稼働、工業団地の新工場が次々と操業を開始した。 9月の鳥取県東部の有効求人倍率は1.39倍で、高水準での改善が進み、全国有効求人倍率1.38倍を上回った。 今後も引き続き企業誘致に取り組み、雇用の確保を図っていく。
7	平成30年4月の中核市移行準備が着実に前進	中核市移行に伴う鳥取県からの移譲事務は、約2,600事務となった。 中核市移行により市が設置・運営する保健所は、平成32年3月頃までの約2年間は暫定施設として、福祉・保健・医療分野の業務は「さざんか会館」に、環境・衛生の業務は「県東部庁舎4階」に配置するよう計画している。 新本庁舎整備後は、駅南庁舎を活用するとともに、これまでの市の保健センター業務や子育て支援業務も配置し、「健康づくりと子育て支援の総合拠点」として整備する予定としている。 今後は、平成29年1月に総務省・厚生労働省のヒアリング、同年2月に市議会への「中核市指定の申出議案」の提出を予定するなど、同年11月頃の政令指定まで、具体的な事務手続きを進めていく。
8	リオオリンピック・パラリンピック代表に鳥取市出身者3名が選出	リオオリンピックのホッケー女子代表に阪口真紀選手、大家涼子選手が選出され、リオパラリンピック陸上代表に野田昭和選手が選出された。 応援懸垂幕の掲出や激励金を交付するなど全市を挙げて応援した。
9	新本庁舎建設の基本設計が完成、着実に取り組みが進む！	ワークショップや市民政策コメントなどで寄せられた意見を反映させた基本設計が8月に完成。引き続き実施設計に着手するとともに、新本庁舎建設工事発注方法等検討委員会を立ち上げた。今後も、平成31年秋の新本庁舎完成に向け、着実に取り組みを進めていく。
10	鳥取市地酒で乾杯条例の施行及びどぶろく「どんでん返し」販売開始	因幡地方（鳥取県東部）の酒造の伝統を守り、関連産業の振興に寄与することを目的に「鳥取市地酒で乾杯条例」が平成28年6月28日に施行された。 また、平成26年3月に認定を受けた「鳥取市五しの里さじどぶろく特区」で、製造試作を重ねたどぶろく「どんでん返し」が完成し、11月19日より販売を開始した。 これらを契機に、市民が気軽に地酒を楽しめる環境の醸成や、消費拡大・地産地消の推進につなげていく